

令和5年2月14日
大阪府立西浦支援学校

令和4年度 学校教育自己診断アンケート（報告）

【保護者アンケートの方式について】

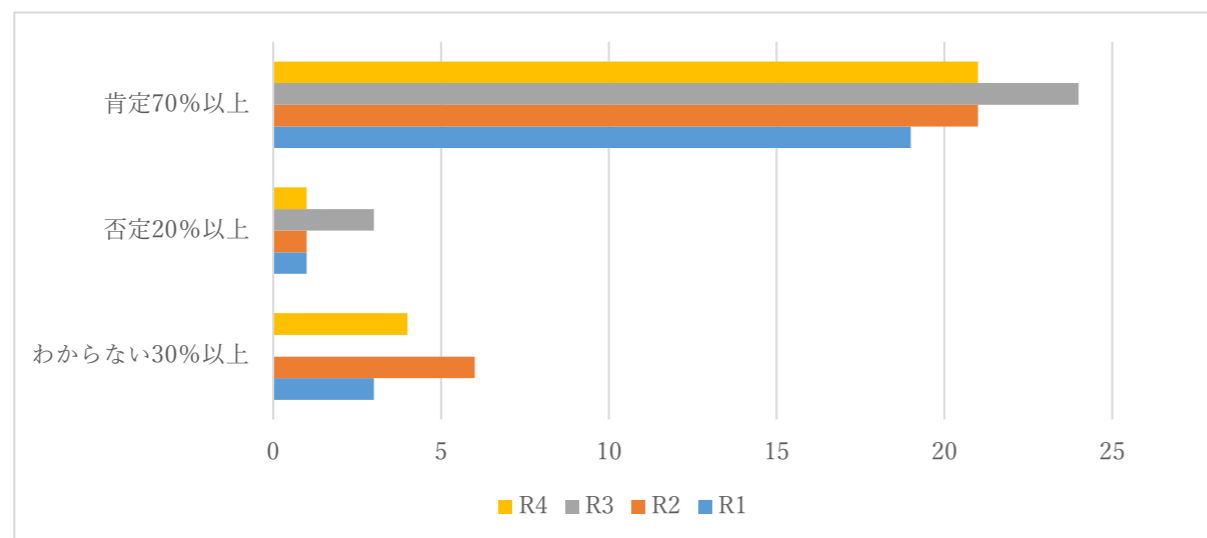
アンケート方式	Web 入力フォーム			
設問数	27問			
設問カテゴリ	○子ども・保護者の支援に関すること ○教育活動に関すること ○学校運営に関すること			
回答方法	A：よくあてはまる	B：ややあてはまる	C：あまりあてはまらない	D：まったくあてはまらない
	E：わからない			
分析方法	A/B：肯定的意見	C/D：否定的意見	E：わからない	

【回答率と回答傾向について】

本調査は令和4年10月21日から10月26日の期間に実施し、保護者からの回答率はおよそ35%でした。昨年度はWeb入力フォームへ移行したばかりで回答率が30%でしたが、わずかに改善が見られました。

部活動に関する設問について、「わからない」という回答が多くありました。「課外クラブの参加者のみ回答」と注釈をつけていましたが、課外クラブの対象外である小学部の保護者からの回答が一定数あったことから、その影響を受けていると考えられます。正確なアンケート結果を得るため、部活動に関する設問の回答方法について方策を考えます。

【意見の分布について】



【肯定的意見について】

全項目における肯定的意見の割合が70%以上の設問は全27問中21問と全体の78%で、昨年度比11ポイントの下落でした。中でも「学校は、担任の先生以外にも気軽に相談できることを設けている」「学校は、子どもがほかの学校の子どもたちと交流する機会を設けている」「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている」の設問では、肯定的意見の割合が昨年度に比べて15ポイント以上下落し、いずれの設問も「わからない」の割合が15ポイント以上上昇しました。学校教育を見直すとともに、保護者の方々に教育活動についてわかりやすく発信していく必要があると考えております。

【否定的意見について】

全項目における否定的意見の割合が20%以上の設問は、昨年度3問に対して今年度1問と、改善傾向が見られました。ただし否定的意見が20%を切った設問についても未だ10%を超えており、今後も「担任以外にも気軽に相談できる環境づくり」「他の学校の子どもとの交流の機会づくり」「積極的に部活動に参加できる環境づくり」に特に取り組んでまいります。

【「わからない」について】

全項目における「わからない」の割合が30%を超えた設問は、昨年度0問に対して今年度4問と、大幅に増加しました。学校ホームページが見つらいというご指摘を受け、今年度は学校ホームページを活用しやすくしようと取り組んでおりますが、必要な情報を十分に発信できていないと受け止めております。ブログ更新の年間計画を組んで頻繁に更新するなどして、本校の取り組みや学校の様子を発信してまいります。

【子ども・保護者の支援に関する項目について】

「学校は、子どものことについて保護者の悩みや相談に適切に応じてくれる」については、肯定的意見が昨年度より6ポイント上昇し、その分否定的意見が減少しています。本校教員と保護者の信頼関係が築けてきている証と受け止め、今後も親身な対応を心がけてまいります。

しかし、「学校は学校いじめ防止基本方針に基づいて対応してくれる」「学校は、担任の先生以外にも気軽に相談できることを設けている」は昨年度より肯定的意見が下落し、「わからない」がその分上昇しております。いじめ事象やお困りごとに直面することのなかった保護者にとって、学校の対応や体制がわかりにくいことが原因だと思われれます。担任以外にも相談しやすい環境を整えるとともに、いじめを許さない組織的取り組みについてわかりやすく学校ホームページ等で発信してまいります。また、設問文が何を問うているのかわかりにくいものもあるため、わかりやすい設問に変更いたします。

【教育活動に関する項目について】

「体育大会や校外学習・宿泊学習・修学旅行などの学校行事が、参加しやすいよう工夫されている」については、肯定的意見が昨年度より8ポイント上昇しました。新型コロナウイルスの広がる中で、感染対策を講じながら実施してきたことが、保護者の皆様に認められたものと受け止めております。

「学校は、子どもがほかの学校の子どもたちと交流する機会を設けている」については、肯定的意見が昨年度より15ポイント下落し、その分「わからない」が増加しています。居住地交流や西浦フェスティバルでの作品交流など様々な取り組みを行っていますが、感染症対策として直接の交流を避けて実施して

いるものもあり、保護者の皆様には見えにくくなっていると思われます。交流の取り組みは学校教育自己診断の実施後に行われるものが多いことから、取り組み内容に加えて年間の交流予定も含めて、学校ホームページでお示ししてまいります。

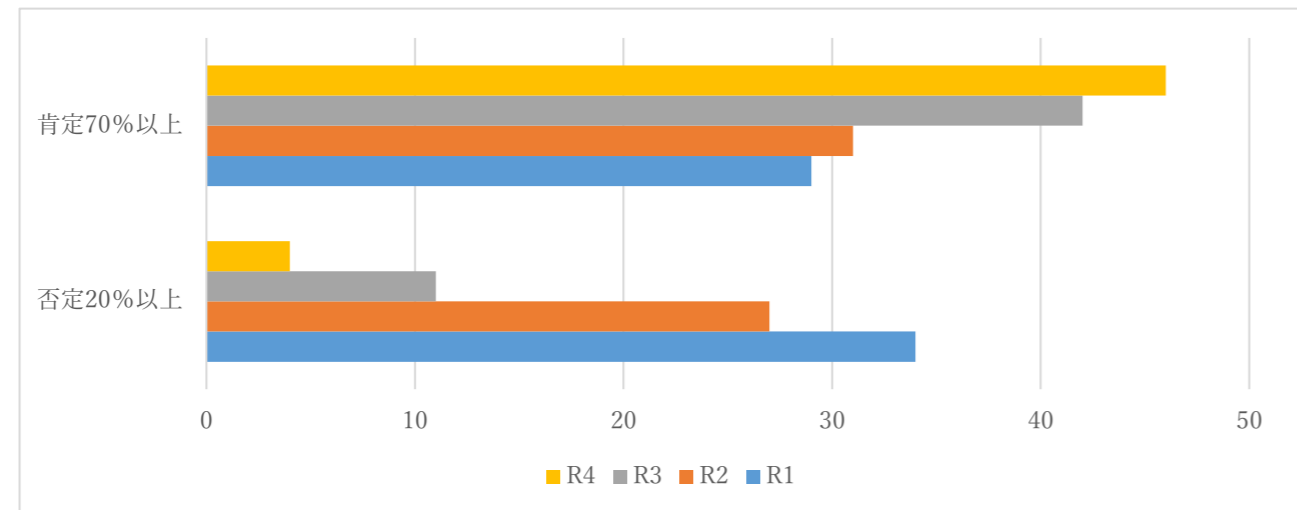
【学校運営に関する項目について】

1項目を除き、すべての項目について肯定的な意見が80%以上であり、良好な結果でした。しかし、「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている」の項目については、肯定的意見が18ポイント下落しました。研修やホームページについて保護者にアンケートでご意見をいただく機会を設けたり、学校運営協議会で地域の方々から助言をいただくなどしておりますが、十分ではないと受け止めております。今後も保護者や地域の人たちから意見を広く聞く機会を用意してまいります。

【教職員の回答について】

ほぼ全ての項目で、肯定的意見が増加しました。特に顕著に増加したのは「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」で、前年度から肯定的意見が22ポイント増加して93%になりました。日頃の授業や自立活動、学校行事などをどのように行い、児童生徒によりよい学びの機会を作り出すのか、日常的に話し合いが行われていることは、学校組織として誇らしく思います。

この数年、保護者から高い評価を受けている項目でも教職員からの評価が低いという現象が見受けられ、教職員が自分たちの教育活動に自信を持っていない状況が続いていましたが、今年度はその状況に改善が見られました。



【全体考察】

保護者アンケートについては、昨年度に一昨年度から肯定的意見の割合が上昇した項目が、一昨年度の水準に戻ってしまうという傾向が見られました。昨年度は初めてWeb入力フォームを用いて学校教育自己診断を実施した年で、回答率も30%とこの数年で一番低かったため、多くの保護者の意見を拾い切れていない可能性もあります。昨年度を除くと、ほとんどの項目で3年前から徐々に肯定的意見が増えてきていますので、昨年度からの肯定的意見の増減も学校教育改善の参考にいたしますが、長期的な傾向も見な

がら改善の方策を考えてまいります。

また、以下のようなご意見がありましたので、今後の参考にさせていただきます。

○授業や指導に関すること

- ・デイサービスの児童発達支援管理責任者やスタッフに、学校の取り組みや授業内容を共有してほしい。デイサービスと学校の支援内容を共有・共通化することで、子どもの混乱が減ると思う。
- ・発達障がいと知的障がいのクラスを分けて、各々に合わせた取り組みを充実させてほしい。
- ・男女交際やスキンシップについて指導をするのであれば、体育の授業を男女別にしてはどうか。
- ・子ども一人ひとりに合った勉強を積極的に進めてほしい。
- ・児童生徒の情報の共有を徹底してほしい。担任以外の先生でも柔軟に対応できるようにしてほしい。
- ・えらそうな言い方をする先生がまだいるので、生徒に寄り添う言葉遣いをしてほしい。
- ・先生主体ではなく、生徒主体で考えて教育活動を進めてほしい。

○進路に関すること

- ・高等部の職業教育を充実させ、もっと自立や仕事への考え方を高めてほしい。
- ・高等部はCFコースに力を入れていて、他の生徒への教育が不足していると感じる。学年や学部が上がっても活動内容が変わっていなかったり、活動内容が易しくなっていることもある。一人ひとりの力を見極めて、卒業後に生かされる力をつけてほしい。

○その他

- ・地域の学校などと定期的に交流する場を増やして、障がいのある子どもへの理解を深めてほしい。
- ・地域の方や小中学校の方々に見学に来てもらい、支援学校の存在を知らせてほしい。
- ・コロナのことで学校を休んだときなど、学校からのお知らせが手元に届くのが遅くなる時は、郵送やメール、アプリなどで知らせてほしい。
- ・もっと保護者の声を聞いた方がいい。「このことについて教えてください」というのではなく、日ごろ思っていることや直した方がいいと思うことを聞いてはどうか。
- ・生徒が多すぎて、先生も教室も足りていないと思う。
- ・回答の選択肢に「普通」も入れてほしい。

【学校運営協議会より】

- ・保護者アンケートで回答の選択肢に「普通」を入れてほしいというご意見もあったが、「わからない」という回答には「どちらともいえない／知らない／自分は該当しない」といった複数の意味が含まれているのではないかと。大阪府の方で選択肢が定められていて変更できないのであれば、設問文の工夫を行う必要がある。
- ・保護者からのご意見の中で先生の言葉遣いについて言及があったが、大変気になる。生徒に寄り添う言葉遣いを徹底してもらいたい。
- ・保護者の回答率が35%と十分ではなかった理由について考え、多くの保護者に回答してもらえる工夫を行うべき。